

文学部 地理学科（3つのポリシー）

教育の理念

地理学科は、地域文化研究専攻と地域環境研究専攻の二つの専攻を置き、地域の文化や環境の本質についてフィールドワークなどをとおして理解し、人間と自然の関係について考え行動できる力を身につけ、広く社会に貢献できる人材の育成を教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

地理学科および地理学科に設置されている二つの専攻（地域文化研究専攻・地域環境研究専攻）は、地域の文化や環境の本質について、フィールドワークをとおして理解できる人材を育成する。この学習成果をもって、卒業後、交通・旅行業界、地図製作・測量業界、不動産関連業界、行政・教員、学術・研究などの分野において、実務の現場で活躍できる人材を輩出することを目標とする。具体的には、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位（「学士（地理学）」）を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

本学の建学の理念を理解した上で、多様な人間と自然の関係について考え、他者を尊重しつつ主体的に行動できる力を身につけていること。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

フィールドワーク、観測、測量、統計分析、GIS など、地域の文化や環境の調査に必要な文理を問わない幅広い知識と分析能力を身につけていること。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

専門知識を活かして、地域の課題を解決する実践力を修得していること。その結果を正確な文章や効果的なプレゼンテーションにより表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

修得した知識を活用しながら、他者と協働して地域調査および課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な地理学の学びを通じて、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重できる国際感覚や共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

| ◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている | | | 学習評価の観点 | | | | | | | |
|----------------------------|-----|-------------------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | 知識 | 技能 | 思考力 | 判断力 | 表現力 | 主体性 | 多様性 | 協働性 |
| 卒業認定・学位授与の方針 | DP1 | 建学の理念を 実践する力 | | | | | | ◎ | ○ | ○ |
| | DP2 | 幅広い教養と 専門知識 | ◎ | ◎ | | | | | | |
| | DP3 | 課題解決力、表 現力 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | DP4 | 多様な他者を 尊重し、協働す る力 | | | | | | ○ | ◎ | ◎ |

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地理学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 一年次は、地理学の対象と領域、見方・考え方について理解する。加えて、地図や地域統計を利用した基礎的な分析スキルを修得する。
- 2) 二年次は、地理学の学問的な要となる地図について学ぶ。また、地域文化や地域環境に関する専門的な知識と技術を学ぶ。
- 3) 三年次は、地理学の根幹であるフィールドワークを重視した野外調査実習を軸として発展的な学習を進める。また、測量やGISなど社会で有用なICT教育を含む高度な技術を身につける。
- 4) 四年次は、卒業論文の作成・執筆をとおして、高度な技術力と地域の課題を解決するための深い洞察力を持った専門知識人の育成を目指す。
- 5) グローバル化する社会に対応するために、海外での学習や体験を奨励し、積極的に支援する。

2. 教育方法

- 1) 一年次は、必修科目である「人文／自然地理学入門」と「人文／自然地理学実習」を配置し、導入教育を行う。加えて、基本的なICT教育も行う。
- 2) 二年次は、必修科目の「地図学」、および地域文化や地域環境に関する専門選択必修科目の講義および実習を広く配置する。また、実際に地域調査を体験するための「地域調査入門」も配置する。これらにより、専門的な知識と技術を修得することができる。
- 3) 三年次は、地域文化・地域環境研究専攻それぞれに「地域文化調査法／演習」「地域環境調査法／演習」を選択必修科目として配置し、実際の調査・研究をとおしてそれぞれの専門分野における知識および調査スキルなどをアクティブ・ラーニング形式で学ぶ。また、実習系専門科目を配置し、測量やGISなどに関する高度な技術を学ぶ。
- 4) 四年次は、必修科目として「地理学演習」を配置し、卒業論文執筆のための指導を行うとともに、地域の課題を解決するための能力の向上を図る。
- 5) 専門科目に「海外研究」を配置し、海外体験から学んだことを専門的な視点からレポートにまとめることにより単位として認定する。
- 6) 各年次において必修科目の単位が取得できていない学生に対して個別に学修指導を行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

| 分野区分 | | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | 各科目群のねらい | |
|--------|----------------------------|----------|-----|-----|-----|--|--|
| 全学共通科目 | 宗教教育科目 | ◎ | | | ○ | 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。 | |
| | 教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野） | | ◎ | ○ | ○ | 多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。 | |
| | | 初年次教育科目 | | | ◎ | 高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。 | |
| | | キャリア教育科目 | ○ | | | ◎ | 社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。 |
| | 外国語科目 | | | ◎ | | ○ | 社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める |
| | 保健体育科目 | | | | | ○ | スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。 |
| 専門教育科目 | 導入教育科目 | | | ◎ | ○ | | 専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。 |
| | 講義科目 | | | ◎ | | | 専門分野の知識を体系的に身につける。 |
| | 実験科目 | | | ◎ | | | 実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。 |
| | 実習科目 | | | ◎ | ○ | ○ | 専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。 |
| | 演習科目 | | | | ◎ | ○ | 少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。 |
| | 卒業論文・卒業研究・資格試験など | | ○ | | ◎ | ○ | 4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。 |

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地理学科は、駒澤大学及び文学部受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 地理学科が求める学生像

（AP1） 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。地域の文化や環境に関心を持ち、入学後学んだ地理学の専門知識や技術を、積極的に社会に還元しようとする意欲がある。

（AP2） 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

地理学科での学修に必要な基礎学力を身に付けている。受験科目に特化して勉強するのではなく、高等学校の教科・科目の広い範囲にわたって、知識・技能をよく身に付けている。

（AP3） 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地図・統計や野外観察などを通じて、地域の諸問題を客観的に判断することができる。分析結果をレポートやプレゼンテーション等により、分かりやすく表現することができる。

（AP4） 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

他者と協働して行う調査・研究において、他者の考えの多様性を尊重しながら、自分の意見を主張し、主体的に行動することができる。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・高等学校における「地理」の知識
- ・幅広い読書
- ・日常の社会問題、環境問題に関心を持つ
- ・地図を見る習慣を身につける
- ・屋外に出て、いろいろなものを見る

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

| 選抜区分 | | 選抜方法 | AP1 | AP2 | AP3 | AP4 | 選抜制度の目的および特徴 |
|---------------|---------------|------------|------|-----|-----|-----|---|
| 一般選抜 | 全学部統一日程 | 筆記試験 | | ◎ | ○ | | 大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。 |
| | T方式 | 筆記試験 | | ◎ | ○ | | |
| 大学入学共通テスト利用選抜 | 前期 | 筆記試験 | | ◎ | ○ | | 大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。 |
| 総合型選抜 | 自己推薦選抜（総合評価型） | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ | 本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。 |
| | | 小論文等 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 面接・口頭試問 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | |
| 学校推薦型選抜 | スポーツ推薦選抜 | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ | 本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。 |
| | | 事前課題 | | ◎ | ○ | | |
| | | 面接・口頭試問 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 指定校推薦選抜 | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ | 本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。 |
| | | 面接・口頭試問 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 附属高等学校等推薦選抜 | 出願書類 | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ |
| 事前課題 | | | | ◎ | ○ | | |
| その他選抜 | 社会人特別選抜 | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ | 本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。 |
| | | 小論文 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | 英語 | | ○ | | | |
| | | 面接・口頭試問 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | |
| | 国際型選抜 | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ | 本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。 |
| | | 事前課題 | | ○ | | | |
| | | 面接・口頭試問 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | |
| | 外国人留学生選抜 | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ | 本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。 |
| | | 日本留学試験（成績） | | ○ | | | |
| | | 小論文等 | | ○ | ○ | | |
| 面接・口頭試問 | | ◎ | ○ | ◎ | ○ | | |

| | | | | | | | |
|--|--------|---------|---|---|---|---|--|
| | 編入学者選抜 | 出願書類 | ○ | ○ | | ○ | 本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。 |
| | | 小論文等 | | ◎ | ○ | | |
| | | 英語 | | ◎ | | | |
| | | 面接・口頭試問 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | |